

子どもはお母さんが大好きなのです

人形劇団 ののはな 納富 俊郎

去年の4月15日、須堯（すぎょう）千里ちゃんが、6歳の若さで亡くなりました。ちさとちゃんは1年前に悪性の癌におかされ、楽しみにしていた小学校の入学もかなわず、力つきました。

私は、小児病棟のクリスマス会で会いました。お母さんは、クリスマスもお正月も、家に連れて帰れないと泣いていたそうです。そんな中で見た人形劇が楽しくて楽しくて、親子で笑ったんだそうです。そして、2月の病院の近くであった作品の公演を、お医者さんに無理を言って、お父さんと妹さんといっしょに見に来られました。公演終了後、そのことを聞きました。ジーンとききました。3月に病院に行くと、千里ちゃんは参加することはできませんでした。病室に行き、作った人形をあげました。そのとき、初めてお母さんと話しましたが、「楽しみにしてたんだけど、どうしても今日はだめなんです…。」と涙を流されました。その涙を見て、状況がわかりました。小さな個室でできる人形劇をと、準備している時に、残念な知らせが入りました。お葬式で、お母さんと話しました。泣くまいとがんばっても、病室でつい涙を流してしまうことが多かったのだそうです。すると、千里ちゃんは「お母さん泣かないで、がんばるから。」と一生懸命がんばっていたんだと、涙を流されました。僕も泣きました。子どもはお母さんが好きなのです。お母さんが幸せでニコニコしていれば、子どもも幸せなんだと思いました。そして、テレビが見られなくなってからも、あげた人形をにぎって動かしていたと聞いて、私は、ちさとちゃんに生かされている、と本当に大きな喜びを感じました。一人でもいい、喜びを与えることができれば—それが、今の私の望みです。そして、子どもだけでなく、お母さんにも幸せであってほしいと思います。

ちさとちゃんは「ちいちゃん、死んだらどうなるの？」とお母さんに聞いたそうです。おかあさんは「お母さんが、また生んであげる。」と答えたそうです。悲しく嬉しい話でした。



プロフィール

- 1951年 長崎市に生まれる
- 1972年 人形劇団ブークに入団
- 1991年 ブーク退団
- 1992年 エツコワールド入社
- 1998年 北九州市で人形劇団「のはな」を夫婦で

作り

活動は始める。

「北九州を本拠地にして、全国で人形劇の公演をしています。小さな劇団ですが、野に咲く花のように、大地の恵みをもらって育ち、やがてその成果を大地に返していけるような活動をしていきたいと思っています。」